

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 奈良女子大学附属中等教育学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中等教育学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 その他 ( )

住所 〒630 - 8305  
奈良市東紀寺町 1 - 60 - 1

E-mail : kitao-s@cc.nara-wu.ac.jp  
 Website : http://www.nara-wu.ac.jp/fuchuko/

児童生徒数：男子 360 名 女子 381 名 合計 741 名  
 児童・生徒の年齢 13歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

## A. 海外交流

### ①日本・韓国・フィリピン・台湾・インドネシアの高校 7 校（一部ユネスコ・スクール外）による国際交流プログラム「YES for ESD」の実施。

1997～2008 年にかけて取り組んできた「グローバルクラスルーム」という国際交流プログラムを、アジアの ASP ネットワークをもとに本校独自で成立させた国際交流プログラム（「YES for ESD」）に再編し、ESD に関わるテーマ（今年度は「貧困問題」と「フェアトレード」）を多様な国籍と価値観を持つ生徒たちが、国際会議の場でディスカッションし、提言をまとめることをめざしたプロジェクトとして本校にて実施した。（本校生徒 10 名、教員 2 名が参加）以下、詳細な報告です。

本校の国際交流事業は、2006 年のユネスコ・スクール加盟を機に、アジア太平洋地域を中心とした国際交流プログラムの実施に着手してきた。2008 年には 4 か国（韓国・フィリピン・タイ・日本）のユネスコ・スクール、計 7 校間の共同学校提携文書調印に至り、それら提携校と、ユネスコの理念である ESD（Education for Sustainable Development, 「持続可能な発展のための教育」）を大会テーマとする高校生による国際会議 “YES for ESD (Youth and Educators’ Summit for ESD「ESD のための若者と教育者のサミット」)” を年一回開催することで合意した。そして、2010 年 6 月、提携校の内の一つであるフィリピンの City College of Calapan が主体となり、カラパン市（フィリピン）において第一回目の YES for ESD が実施された。フィリピン、韓国、日本の生徒約 20 名が集い<sup>1</sup>、「文化の多様性」と「子どもの人権」を主たるテーマとし、テーマに関した各国からの現状報告やディスカッションを通して各自の考えを深め、その後の各学校での取り組み（アクションプラン）を採択し閉幕した。

第二回（2011 年度：テーマ「森林保護」と「平和」）、第三回（2012 年度：テーマ「家族の価値」）も同様にフィリピンのカラパン市で開催された。それぞれ本校生徒 6 名が参加し、地球規模でおこる諸問題に向き合い、将来の地球、人類のあるべき姿を討論を通して考えた。

過去 3 年に渡り、フィリピンで YES for ESD を実施してきたが、2013 年度は本校がホスト校となり、7 月 7 日～12 日の期間、「世界の経済問題を考える－貧困問題とフェアトレード－」をテーマとし開催した<sup>2</sup>。本稿では、その YES for ESD 2013 奈良大会開催にあたっての事前準備から当日の活動内容までを報告する。

#### 1. テーマ設定

YES for ESD のテーマ設定は前年度の大会中に教員及び参加生徒が議論しながら決めていくことになっている。ESD の 3 つの柱、すなわち環境（2011 年度）、社会（2012 年度）、そして経済、を網羅するため、2013 年度は必然的に経済に特化していくことで合意した。経済問題は非常に複雑で、高校生にとっては非常に難しいテーマであるため、より具体的なサブテーマを設定する必要がある。したがって、2013 年度ホスト校である本校にサブテーマの設定は一任するという形で合意し、本校担当教員間で話し合い、貧困問題とフェアトレードをサブテーマとすることとした。

YES for ESD に参加している学校は先進国と発展途上国にわかれる。特にフィリピンにおける貧困問題は非常に深刻で日本のそれとは比にならない。少しでも多くの生徒にフィリピンの貧困の状況を知ってもらいたい機会だと考えた。また、日本や韓国に貧困問題はないと考えている海外生徒も多くいる。程度の差はあれ、どのような国にも貧困問題は存在し、何らかの解決策を見出す必要があることを訴える意味でも貧困問題をサブテーマとした理由の一つである。

フェアトレードは貧困問題の解決に繋がり得る一つの方法であると言われている。しか

<sup>1</sup> 残念ながら、諸事情で提携校となったタイの 2 校は参加することができなかった。

<sup>2</sup> YES for ESD 2013 奈良大会は、第 4 回 ESD みんなのアシストプロジェクトによる助成を受けて開催された。

しながら、2012年11月にフェアトレードをテーマとした釜山国際高校（韓国）<sup>3</sup>主催のGlobal Forumに筆者本人が参加し、先進国においてフェアトレードの概念は未だ広まっていない現状を目の当たりにした。事前の調査では、日本の中高生のおよそ8割がフェアトレードという言葉も聞いたことがないと答えており、韓国でも同じような状況であった。ましてや情報不足に悩む最貧国の労働者がそのような言葉を知る由もない状況である。そのようなことから、フェアトレードを普及させていく意味でもサブテーマとして適切だと判断した。

## 2. 参加校決定

前述したように、本国際交流プログラムはフィリピン、韓国、タイ、日本の各ユネスコ・スクール間での合意に基づいて実施されている。しかしながら、共同学校宣言採択後はタイの学校とは連絡が取れない状況となってしまう、タイからの参加はこれまで一度もなかった。そこで、本プログラムをより発展したものとするために、参加校枠をユネスコ・スクールに限らず、本校が独自に姉妹校提携している中山大学附属国光高級中学（台湾）と、昨年度学校訪問受け入れを機に以後交流が続いているSMAN 10 Samarinda High School（インドネシア）に参加を打診し、参加に至った。

最終的に参加した学校は以下の5か国の5校である。（\*はユネスコ・スクール）

- ・\*奈良女子大学附属中等教育学校（日本）
- ・\*City College of Calapan（フィリピン）
- ・\*釜山国際高校（韓国）
- ・中山大学附属国光高級中学（台湾）
- ・SMAN 10 Samarinda High School（インドネシア）

## 3. プラグラム内容及びスケジュール

プログラムは主に3つ構成要素で成り立っている。一つは異文化交流を目的としたプログラム（ホームステイ、市内観光、各国の文化紹介、文化交流会等）、そして貧困問題を考えるプログラム、最後にフェアトレードを考えるプログラム、である。ここでは主に、ホームステイと今大会のテーマである貧困問題とフェアトレードについてのプログラムの内容について記述したい。

### 3-1. ホームステイプログラム

これまでフィリピンにて開催されてきたYES for ESDでは、現地の人々の暮らしを体験する目的で、1泊2日のホームステイプログラムが実施されてきた。参加者たちの反応を見ていると、わずか1日半のホームステイであったとしてもかなり刺激を受け、異文化を身をもって体験することができたと考える。これまでの感想等から、ホームステイ期間をもっと長くできないかといった要望も多かった。

以上のことを踏まえ、今回のYES for ESDでは、全日程において海外参加者の宿泊はホームステイ形式で実施することにした。20数名分のステイ先が見つかるかどうか不安な部分もあったが、実施半年以上前から募集を開始し、なんとか全員を賄える分のステイ先を確保することができた。

今回のホームステイの目的としては、単に日本での暮らしを体験するだけでなく、家族の一員として家事の手伝い等を経験し、ひいては家族の大切さを知ることが挙げられる。1泊2日の短期間のホームステイでは、どうしてもゲストとして招かれ、不自由なく「おもてなし」を受けるだけにとどまってしまう。今回のように5日間に渡るホームステイでは、家族の一員として自分たちの役割を果たすこと、日本の家族とそれぞれの出身国の家族の違い等を経験の中で培ってほしいというねらいがある。

特に大きなトラブルもなく、無事にホームステイも終了し、海外生徒達にとっても、引き受けてくださった家庭にとっても非常に満足のいくホームステイプログラムであった。残念ながら、スケジュールが過密であったこともあり、ホストファミリーとゆっくり休日を過ごすことができず、残念だったという感想もいただいた。この点については今後

<sup>3</sup> 釜山国際高校はYES for ESDにも参加している学校である。

の検討課題としたい。

### 3-2. 貧困問題を考えるプログラム

海外から来た生徒たちにまず日本の貧困問題の現状を実際に見てもらおう目的で計画したのが「貧困問題ワークショップ及び釜ヶ崎地域（大阪市西成区）フィールドワーク」である。国内最大のホームレス・日雇い労働者の街として知られる釜ヶ崎地域（通称あいりん地区）を実際に歩き、その歴史と現状を肌で感じ、知ることが貧困問題を考える第一歩だと考えた。なお、本ワークショップ及びフィールドワークは当地域でボランティア活動をしている「NPO 法人 Homedoor」に協力を依頼し、実現することができた。

YES for ESD が開催される 2 か月前に、事前学習として釜ヶ崎地域を本校の参加予定者とともに訪れた。その際に初めて Homedoor スタッフにガイドをお願いし、地域の事を学んだ。すぐ隣の町でこのような現状があることを知り、本校の生徒たちはショックを隠せない様子であったが、現実をこの目で確かめることが一番重要だと考え、YES for ESD 本番でも海外生徒達に見てもらえるよう Homedoor 協力のもと計画を進めた。

当日は、フィールドワークへの準備として、まず釜ヶ崎地域の概要を簡単に説明した。その後小グループに分かれ、ホームレス・日雇い労働者の方々の暮らし、その街特有の文化等について NPO 法人スタッフの説明を聞きながら見て回った。その後、同法人スタッフによる貧困問題ワークショップを行い、事例を基にホームレス状態に至る経緯、生活保護受給者が抱える諸問題、解決の糸口となり得るものは何か、について議論しあった。各グループでは活発に意見交換がされ、特に日本にこのような場所があるとは知らなかった海外生徒達は一様に驚きを隠せない様子であった。フィリピンの高校生からは、「マニラの街を歩いているかのようで、先進国である日本にも貧困問題が存在するのは驚きであった。唯一マニラと違う点は日本にはストリートチルドレンがないことだ。なぜ路上生活者の中に子供がいないのか。」といった意見・質問が出るなど、非常に建設的な意見交換が行われた。

ワークショップの後、各国の貧困問題に関するプレゼンテーションを行い、それぞれの国が抱える貧困問題をテーマに、具体的に若者がその解決に向けて何ができるかを発表した。発表に続くディスカッションでは、具体的な解決策が本当に解決に導くのかどうか真剣に議論された。最後に、City College of Calapan の Dr Rene Colocar 氏（フィリピン・ユネスコ国内委員会前ナショナルコーディネーター）より、そもそも貧困とは何か、についてミニ講演の形式でまとめていただいた。

### 3-3. フェアトレードを考えるプログラム

フェアトレードを考えるにあたり、そもそも現在の国際貿易はフェアではない、という状況を理解してもらう必要があった。そこで、イギリスの NGO 団体 Christian Aid が開発した体験型趣味レーションゲーム「貿易ゲーム」を行い、ゲームを通して世界の不均衡を体験してもらった。日本では開発教育協会が日本語版を出版するなど、世界の貿易のあり方を考えるための教材として広く知られている同ゲームだが、少なくとも今回参加した国々ではほとんど知られておらず、どの参加者たちも初めて経験するゲームであり、自分たちの国が世界貿易の場においてどのような立場にいるのか感じ取ってもらうことができた。ゲーム終了後、それぞれのグループで現在の貿易システムの問題点を話し合った。その中で自発的に参加者の中からフェアトレードの必要性を訴える声があったのが印象的である。

午後からは JICA の福田創氏を招き、各国のフェアトレード状況を報告するプレゼンテーションを行った。インドネシアからの報告によると都心部ではいくつかのフェアトレード団体が存在しているが、その他の地域ではいっさいそのような団体はなく、フェアトレードということばの存在自体知られていない現状が報告された。実際にインドネシアからの参加者たちは今回の YES for ESD に参加するにあたり、初めてフェアトレードという言葉を知ったようだった。YES for ESD の参加国はフェアトレード商品産出国（インドネシア、フィリピン）と輸入国（日本、韓国、台湾）に分けることができるが、いずれの国においても、フェアトレードという言葉自体、あまり知られていない現状が報告された。

各国からの報告の後、福田創氏によるワークショップ形式の講演会を行った。はじめに、氏のザンビア駐在員としての経験から、ザンビアにおける貧困の状況、フェアトレードの現状を報告していただいた。その中で、子供が働かざるを得ない現状や、天然資源採掘現場の劣悪な環境の中で働く人々の健康被害、ザンビアにおけるフェアトレードの現状に触れられ、さらに貧困問題とフェアトレードの密接な関係を知ることができた。

講演後、二日間にわたる経済問題の総まとめとして、小グループでフェアトレードが貧困脱却の糸口となり得るのか、といった問いを中心にグループディスカッションを行い、話し合われたことをポスターにまとめ、各グループが発表を行った。

#### 3-4. プログラムスケジュール

**DAY 1 (July 7, Sun)** 参加者到着 \*インドネシアチームのみ7月6日に関西国際空港到着

- 10:30 韓国チーム関西国際空港到着
- 11:30 台湾チーム同空港到着
- 21:30 フィリピンチーム同空港到着
- 到着次第随時リムジンバス（フィリピンのみ JR）で JR 奈良駅へ
- JR 奈良駅にてホストファミリーに引き渡し

#### **Day 2 (July 8, Mon)**

- 8:30 学校集合
- 9:00 校内ツアー
- 10:00 開会式
- 10:30 アイスブレーキング活動（ハンカチ落とし等）
- 11:30 昼食（食堂）
- 13:00 奈良シティツアー（東大寺大仏殿へ）
- 16:00 学校及び文化紹介
- 18:00 ウェルカムパーティー
- 20:30 解散

#### **Day 3 (July 9, Tue)** 貧困問題を考える日

- 8:30 JR 新今宮駅集合
- 9:00 釜ヶ崎フィールドワーク
- 11:00 貧困問題ワークショップ、ディスカッション（西成市民会館）
- 12:00 昼食（大阪新世界にて）
- 13:30 プレゼンテーション（貧困問題）（西成市民会館）
- 15:00 ディスカッション
- 16:30 ディスカッションのフィードバック
- 17:00 釜ヶ崎出発
- 18:30 学校着

#### **Day 4 (July 10, Wed)** フェアトレードについて考え、テーマ全体のまとめ

- 8:30 学校集合
- 9:00 貿易ゲームワークショップ
- 10:30 貿易ゲームの振り返りとディスカッション

- 11:30 昼食（食堂）
- 13:00 各国によるプレゼンテーション（フェアトレード）
- 15:00 ディスカッション
- 16:00 講演&ワークショップ： 福田 創 氏（JICA）  
“世界の貧困問題を考える—我々にできることは何か—”
- 18:00 解散

#### Day 5 (July 11, Thu)

- 8:30 学校集合、昼食まで自由時間
- 13:00 昼食
- 15:00 全体振り返り、評価、Action Plan の作成、参加者宣誓
- 16:00 閉会式
- 17:00 フェアウェルパーティー
- 20:00 解散

#### Day 6 (July 12, Fri)

- 6:00～6:30 フィリピンチーム各家庭出発
- 7:30 インドネシア、台湾、韓国チーム学校集合（空港へ）
- 8:30 後片付け、本校生徒反省会

#### 4. おわりに

本国際交流事業を実施するにあたり、資金の調達からプログラム内容の作成、参加者募集、海外連携校との交渉に至るまで、1年をかけて準備したことが成功裏に終わり、参加者にとってESDの重要性を再認識してもらえたのは、全体の企画・運営を任された者として嬉しい限りである。それぞれがアクションプランに明記したように、今後も各国へ戻りESDの普及に努めてもらえればそれ以上の喜びはない。

これまで4年に渡り実施してきたYES for ESDの活動であるが、残念ながら現時点では来年度実施の見通してはたっていない。このプログラム自体が持続可能でなければならぬ言うまでもなく、来年度はどこで開催するのか、またテーマは何にするのか、これから準備に取り掛からねばならない。

#### ②釜山国際高校主催の高校生によるGlobal Forumへの本校生の参加

2011年度に本校と姉妹校提携を結んだ釜山国際高校（ユネスコ・スクール）が毎年実施しているGlobal Forumには2011年度より参加している。ESDをテーマに、韓国、中国、オーストラリア、日本、ロシア、スウェーデンの6か国の高校生が集まり、スピーチとディスカッションを行う。今年度は「食糧危機」をテーマに各国の現状と課題を報告し、知見を深めることができた。本校からは高校1年生、2年生各2名が参加し、スピーチの他日本文化紹介のプレゼンテーションを行った。

#### B. 世界遺産学習、持続発展教育の推進（総合学習）

WHE、ESD を軸とした新総合カリキュラムを構築、今年度すべて実施した。

- 【1年】探究・奈良Ⅰ
  - 【2年】探究・奈良Ⅱ
  - 【3年】探究・世界Ⅰ
  - 【4年】探究・世界Ⅱ
- 奈良の世界遺産・歴史遺産を学ぶ学習
- 環境、異文化理解、健康など ESD 各領域に関する学習

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )